

室神山

学校便り

平成29年2月15日号

江津市立江津東小学校長 安食 徹



放課後学習会（6年生）

3学期は放課後を利用して、6年生の学習会を開いています。算数を中心に個別の課題で、6年間の復習をしています。是非、自分の力をできるだけ伸ばして、素晴らしい中学校生活のスタートを切ることができるようにしてほしいと思います。6年生は冬休みもたくさんの自主学習をしており、担任が驚いていました。『ローマの道も一歩から』。まず、自分の意志で一歩を踏み出すことが重要です。「ローマは遠いし、どうせ無理だし…」と挑戦する前に諦めるようなことは決してしてほしくありません。そういう意味では、6年生は全員が進学を見据えて、力強い一歩を踏み出したと思います。放課後学習会に参加できない子どもたちも、きっと自主的に家庭学習に取り組んでくれていることでしょう。『鉄は熱いうちに打て』。今、6年生の子どもたちの心は、期待と不安の両方で、大きく揺れ、熱を発しています。是非、家庭においても肯定的な声かけと励ましをお願いいたします。だめ出しをされて燃える子は稀です。希望こそが子どもの成長の原動力となります。義務教育の最終段階、社会的自立に向けてのジャンプ台である中学校生活を、思春期を迎えた子どもたちが自分の人生にとってのかけがえのない価値ある時と場にすることができますよう、小学校生活の残りの期間、ご家庭におかれましても、進学に向けての全力での応援をよろしくをお願いいたします。



近藤卓先生の講演会

1月22日（日）山陽学園大学総合人間学部の近藤卓学部長（日本いのちの教育学会 会長）をお迎えし、『ありのままの私～いつもそばにいてほしい～』の演題で、ご講演を頂きました。学生の田中佑果さんの素敵な歌も披露して頂き、充実した研修となりました。保護者の皆様の多数のご参加に感謝いたします。先生は自尊感情の研究において、世界的にも第一人者です。教育、特に現在、人権・同和教育の研究に取り組んでいる本校の実践において、重視すべき重要な示唆をたくさん頂きました。これらを生かし、本校の目指す子ども像である『**心**とに、優しくできる子（徳） **か**んばって、学ぶ子（知） **心**んが強く、たくましい子（体）』の育成に向けて、職員一丸となって取り組んでいく所存です。



基本的自尊感情について、近藤卓先生の著作より、紹介いたします。

基本的自尊感情は、成功や優越とは無関係の感情です。いわば、あるがままの自分

自身を受け入れ、自分をかけがえのない存在として、丸ごとそのまま認める感情です。よいところも悪いところも、長所も欠点も併せ持った自分を、大切な存在として尊重する感情が、基本的自尊感情です。そして、この感情こそが、自尊感情の基礎を支える大切な感情なのです。誰でも、必ず、失敗したり負けたり、叱られたりすることがあります。そんなときに、心の底のところできっかりと支えてくれるのが、この基本的自尊感情です。

【『月刊学校教育相談2011年4月号』ほんの森出版】

保護者の皆様から頂いた感想をいくつか紹介します。

- 本日は、このような時間を頂き有り難うございました。私も参加するなら親として、何か良いものを吸収できればと思い、参加しました。良い親になりたい、良い子を育てたいとばかり考えていました。改めて感じたことは、私も誰かを愛したいと思っている自分がいたということです。夫と同じものを見たいし、味わいたいのです。一緒に泣いたり笑ったりしたいのです。時間の共有をしたい。しかしそのための努力をしていただろうか、と考えさせられました。また、子どもたちに同じ想いをさせていないだろうか、と。改めて、家族と一緒に過ごしたいと思いました。
- 忙しい日々の中、立ち止まり考えさせられる大切な時間を有り難うございました。これからも続く子育ての中、時間を大切に、子供、自分の心も大切に、一日一日過ごしていけたらと思います。今日帰って、子どもたちと今日の話をしようと思います。また、機会があれば先生のお話を聞きたいです。有り難うございました。
- 恋と愛について、いろいろ勉強になりました。恋は向き合う関係、愛は並ぶ関係なんですね。私も娘と、誉めたり、認めてやったり、いろいろと同じ立場に立って、心を築き合っただけでゆけたらと思います。近藤先生は若いですね。そして歌も大変素晴らしかったです。愛のコミュニケーションを繰り返して厚みをもった和紙ができる。誉められたり共有体験をしたりして大きくなる心、いろいろな体験を積み重ねて、人の心は大きくなり、愛を育てていくのだと思いました。

サケの学習（4年生）

1月25日（水）に4年生が、サケについて学習をし、これからサケの稚魚の飼育に取り組みます。今年で11回目となるサケの放流会（3月18日14時から）に向けて、体験的な学習をしていきます。しっかりサケを育てられるように頑張ってもらいたいと思います。



1日入学

2月3日（金）に来年度新入生の保護者を迎えて、一日入学を行いました。1年生の学年閉鎖のため、交流活動が中止となり、新入生は残念ながら参加できませんでしたが、きっと来年度、学校中を明るくしてくれることでしょう。

保護者の方々に向けて、次のような話をしました。

☆「我が子が一番」は親として当然です。しかし、自分の子だけをよい子にすることはできません。みんなでよい子になっていくことしかできません。『掃き溜めに鶴』は教育の世界では無理なのです。フラミンゴのように、みんなで伸びていかなくてはなりません。そのためにPTAがあります。PTA活動への積極的なご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

☆教育の世界では昔から有名な『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ』という言葉の続き。『話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず』『やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず』（山本五十六の名言）

☆ ^{みつ}三つ心・^{こころ}六つ躰・^{むづ}九つ言葉・^{しつけ}十二文・^{ここの}十五理 ^{ことば}

【江戸しぐさ 子育てしぐさ（江戸の人々は、一人前に育てようと、三歳から十五歳になるまで熱心に子育てに取り組んだ）】

- ・三つ心…三歳までは愛情深く子供に接し、人に対する信頼感を植え付け、心の大切さを理解させる。
- ・六つ躰…六歳までに、日常生活のしぐさ・作法の基本を身につけさせる。
- ・九つ言葉…九歳までに、どんな人にも失礼にならないあいさつや、他人への口の利き方を覚えさせる。
- ・十二文…十二歳までに、きちんと中身が伝えられる文章を書けるようにする。
- ・十五理…十五歳までに、経済、物理、科学などの森羅万象の自然の原理を暗記でなく実感として理解できるようにする。

☆子どもは親の言うようにはならないが、するようにはなる。

「優しい子になれ」と何度言われても、優しい子にはならないが、日々親が優しく接してくれると、親のような優しい人に成長する。

全校朝礼で話したこと

2月9日（木）の全校朝礼では、表彰の後、つぎのような話をしました。

『情けは人のためならず』は昔からの諺ですが、最近意味を逆に捉えている日本人が多いようです。「情けは人のためにならないので、情けをかけない方がいい」というように…。本当の意味は、「情けは、巡り巡って自分に戻ってくるものだから、大いに情けをかけなさい」という意味です。『情けは人のためならず 巡り巡って己がため（自分のため）』と覚えておくといいですね。優しさは優しさのブーメランとしてしっかり返ってきますし、意地悪は意地悪なブーメランとしてしっかり返ってきます。

阪神淡路大震災の時のお話です。そのとき、ある店が石焼き芋を1本 6000円で売っていたそうです。食べるものがないので、誰もがしかたなく、石焼き芋を買っていたそうです。震災後、やっと落ち着いてから、その店は前の値段で売りましたが、誰も買わないので、つぶれてしまったそうです。また、ある温泉旅館は、普段の3倍の入浴料にしたそうです。その時は儲かったみたいですが、ここもまた、

同じようにつぶれてしまったそうです。

みんなも日々の生き方を振り

返ってみましょう。どんなブーメランが返ってきそうですか？今日はちょっと

五戒

辛いことが多いのは 感謝を知らないから
苦しいことが多いのは 自分に甘えがあるから
悲しいことが多いのは 自分のことしか分からないから
心配事が多いのは 今を懸命に生きてないから
行きづまりが多いのは 自分が裸（素直）になれないから

難しいですが、最後に『五戒』というものを紹介します。これを自分の心の物差しにすることができれば、きっととても充実した日々を送れると思いますよ。ブーメランも素敵な嬉しいものばかり返ってくるようになると思います。どういうふうに生活に活かせるか、またクラスのみんなで話し合ってみてください。

掃除に学ぶ会のお知らせ

3月12日（日）の午前8時より2時間程度、掃除に学ぶ会を開催いたします。イエローハット創業者の鍵山秀三郎氏が始められたものです。最近では海外でも掃除研修会が行われ、日本の素晴らしさとして高い評価を得ています。ネットで調べてみると、鍵山氏は『「掃除なんかしても無駄だ」「うちの社長は掃除しかできない」と陰で批判する者もいましたし、私がトイレ掃除をしている横で用を足していく者もいました。最初の10年間は私独りで掃除をしていて、手伝おうという社員は一人もいませんでした。』と回想されています。哲学者のショーペンハウエルは、物事が成功するまでには3段階あると言っています。第1段階「嘲笑される」。第2段階「反対される」。第3段階は、笑いものにしたり、反対したりしていた人がいつの間にか「同調する」のだそうです。「そんなこと、とっくにわかっているよ」と。そうして初めて物事は成功するのだそうです。

私も今まで2回参加経験があり、いずれもとても清々しい気持ちを味わいました。素手で便器を洗うということで、はじめは抵抗感がありますが、衛生的に様々な配慮をして取り組みます。小学校生活のまとめに校舎への感謝の思いを込めて参加してほしいと、6年生に呼びかけています。もし、参加を希望される場合は6日までに江津東小学校 松尾教頭（55-0003）までご連絡をくださいますようお願いいたします。なお、大人の場合、参加費が500円必要となります。

下枠内は、前回開催時にもらった資料の内容です。

なぜ、トイレ掃除か。

- 1. 謙虚な人になれる** どんなに才能があっても、傲慢な人は人を幸せにすることはできない。人間の第一条件は、まず謙虚であること。謙虚になるための確実で一番の近道が、トイレ掃除です。
- 2. 気づく人になれる** 世の中で成果を上げる人とそうでない人の差は、無駄であるか、ないか。無駄をなくすためには気づく人になることが大切。気づく人になることによって無駄がなくなる。その「気づき」をもっとも引き出してくれるのがトイレ掃除です。
- 3. 感動の心を育む** 感動こそ人生。できれば人を感動させるような生き方をしたい。そのためには自分自身が感動しやすい人間になることが第一。人が人に感動するのは、その人が手と足と体を使い、さらに身を低くして一所懸命取り組んでいる姿に感動する。特に、人のいやがるトイレ掃除は最良の実践です。
- 4. 感謝の心が芽生える** 人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。その点、トイレ掃除をしていると小さなことにも感謝できる感受性豊かな人間になれます。
- 5. 心を磨く** 心を取り出して磨くわけにはいかないので、目の前に見えるものを磨く。特に、人のいやがるトイレをきれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てきます。

「日本を美しくする会」